町長の行政報告をお知らせします

八峰町６月議会定例会が13日から15日までの会期で開かれ、町長の行政報告や一般質問、補正予算の議案審議などが行われました。

町長の行政報告の中から主なものをお知らせします。

春の行政協力員会議開催 地域の協力をお願い

春の行政協力員会議を5月24日に開催し、今年度の町の主要事業を説明して、ご理解とご協力をお願いしました。

また、会議冒頭に、今後、地域の課題や問題について、より具体的に、かつより広範に意見交換し、できるだけ多くの方々と将来的な課題や問題を共有できるようにということで、仮称ではありますが、自治会ごとの「町長と町政を語る会」として開催したいと考えており、具体的な内容については、次回の行政協力員会議の際に提案させていただきたいとお願いしています。

平成29年度がん検診受診状況 早期発見早期治療のために

次に、がん検診の平成29年度受診状況がまとまりましたのでご報告します。

昨年の国への検診報告対象年齢は40歳から69歳までです。29年度は、女性の検診の一部は20歳以上ですが、基本的には40歳以上となっています。

このため、対象年齢が広がったことから全体的に受診率が低くなっており、29年度の受診率は、大腸がん検診が22・0％、肺がん検診が19・1％、胃がん検診が17・6％、乳がん検診が27・6％、子宮がん検診が20・6％となっています。

29年度の受診率を28年度と同じ40歳から69歳までの受診率に直して、28年度と比較してみると、胃がん検診の0・7％減から最大肺がん検診の5・8％減と、全ての検診が減少するという大変残念な結果になっていますが、一番減少率の少なかった胃がん検診については、検診対象者に「コールリコール事業」を実施したためと思われ、今後も事業を継続してまいりたいと考えています。

町で行う検診は、人間ドック、集団検診、医療機関での検診など個々の状況に合わせて受診できる体制をとっており、検診を受けていただきたい方への無料クーポンの発行も含め、今後とも受診しやすい環境を整えて受診率の向上を図り、早期発見早期治療ができるよう努めてまいります。

ジオパーク推進事業 再認定審査に向けて全力をあげて

次に、ジオパーク推進事業について報告します。

5月14日、町役場において八峰白神ジオパーク推進協議会の総会が開催されました。日本ジオパークの認定を受けている八峰白神ジオパークは、一昨年の再認定審査において、残念ながら条件付き認定となったことから、その2年後となる本年秋に、再審査を受けることとなっています。

このため、推進協議会では、審査時に指摘を受けた12項目の課題について、アクションプランを作成しながら取り組んでいるところであり、中でも、最重要課題となっている本ジオパークのテーマである「白神山地の恵みに生きる」というジオストーリーを明確化することについては、秋田大学の林教授とアドバイザー契約を結んで取り組んでいます。

再認定までのハードルは大変厳しい状況にあると認識していますが、八峰白神ジオパーク推進協議会と町が一緒になって、加盟する日本ジオパークネットワークや先進ジオパーク団体からの助言も仰ぎながら、再認定に向け全力をあげて取り組んでまいります。

「ジオパーク」は単なる環境保全ではなく「地域を活性化するためのツール」であり、「ジオパーク」をどのようにして地域に住んでいる方々に理解していただき、活用していただけるかということが肝要であると考えています。

6月議会定例会に提出した主な議案

- 物品の取得について
  - 8トン級の除雪ドーザ購入契約締結
  - 歯科診療機器等の購入契約締結
- 平成30年度八峰町一般会計補正予算
  - 1千693万2千円を増額追加した主な歳出
    - 再生可能エネルギー設備の機能強化及び修繕工事、県営漁港負担金、プレミアム付商品券発行事業補助金など
- 平成30年度各特別会計補正予算
  - ・八峰町営簡易水道事業 795万8千円を増額
  - ・八峰町公共下水道事業 197万9千円を減額
  - ・八峰町営診療所 58万8千円を増額
- 八峰町教育委員会委員の任命について
- 八峰町農業委員会委員の任命について
- 平成29年度一般会計及び公共下水道事業特別会計の繰越明許費繰越計算報告

平成30年産米 米の生産調整見直し初年度

「平成30年産米の状況」についてですが、今年度は行政による生産数量目標の配分が廃止され、米の生産調整見直しの初年度となります。

農家から提出される「水稲生産実施計画書兼営農計画書」いわゆる確認野帳を集計したところ、5月23日現在の平成30年産の水稲作付面積は、前年実績を21ha上回る1，103haとなり、このうち主食用米は1，089ha、非主食用米は14haで、前年実績を、主食用米で90haの増、非主食用米は69haの減となっています。

主食用米の作付面積は町が示した「生産の目安」を25ha上回り、数量換算では138トン上回る6，207トンと推計されます。また、水稲作付率は、目安算定時の56・7％を1・4ポイント上回る58・1％となっています。

さらに、今年度は「地域とも補償制度」が廃止されましたので、この影響についてもアンテナを高くしていかなければならないと思っています。

また、去る5月16日、八峰町農業再生協議会通常総会が開催され、引き続き地域段階の「生産の目安」の提示や販売計画の生産現場への情報提供など、平成30年度事業計画や農家所得向上のため国が交付する産地交付金の使途や単価を設定している「八峰町農業再生協議会水田フル活用ビジョン」などが承認されたところです。この「水田フル活用ビジョン」は、先月県を通じて東北農政局に提出され、来月上旬には国から承認される予定となっており、その後広報等を利用して生産者へ周知したいと考えています。

除雪実績 過去5年間の平均経費より1割減

次に、除雪業務の実績について申し上げます。

今年の冬は、数年に一度の厳しい寒気が日本列島を覆い、福井県など北陸地方を中心に記録的な豪雪となりました。しかし、当町では1月以降冷え込みは続いたものの、降雪や積雪が少なめとなり、交通への影響も限定的であったことから、平成29年度の除雪費は6千800万円余りで、過去5年間の平均経費と比較して約1割少ない支出となっています。

また、前年度購入予定でありました除雪車輌については、法改正により排ガス規制が強化されたため、年度内納入が見込まれないことから1年繰り延べとしましたが、去る5月29日に入札を行い落札者と仮契約を取り交わしています。

チャレンジデー 参加率71・9パーセントで過去最高

次に、5月30日に行われたチャレンジデーについて報告いたします。

5回目を迎えた今年度は、参加率の目標を70％に掲げ実施いたしました。5月上旬になると、早くも公共施設や各自治会内にのぼりが立てられるなど、チャレンジデーに向けての雰囲気を大いに盛り上げていただきました。

本番当日は、早朝からウォーキングをする人や、ラジオ体操で体を動かす人、その後も学校や職場、公園や体育館などで、スポーツや運動に汗を流す姿が終日見受けられ、まさに町がスポーツ一色に染められた一日でした。その結果、当町の参加率は過去最高の71・9％で、金メダル獲得ラインである61％を大幅に上回る成績でした。

一方、対戦相手である沖永良部島に位置する鹿児島県和泊町の参加率は67・0％でしたので、見事勝利することができました。

チャレンジデーに参加していただいた町内外の皆様と、実施に当たりご協力をいただきました、町内事業者、各種団体や多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。